

「モミジのリース」美術誌に

福澤さん 浜中 作品

掲載され注目

自然の素晴らしさ伝える

【浜中】茶内在住でフラワーアレンジメント教室「アトリエ・コスモス」を主宰する福澤智子さんのモミジをリースにした作品「うつろい」が、さまざまな美術作品を紹介するフリーマガジン「つくりびと」(64号、国民みらい出版)に掲載され注目を集めている。福澤さんは「これからも作品を通して自然の素晴らしさを伝えたい」と語る。

(嶋守善一)

「うつろい」は、繊細なモミジの葉をリング状に重

ねリースとしたみずみずしい黄緑に色づき始めた赤がのぞく作品で同出版社が制作を依頼。9月に町内で3日間かけて材料となるモミジを探し、その後、集中力を発揮して2時間で作品を完成させた。また、同フリーマガジン掲載の写真は、題名の「うつろい」と川の流れをかけ、浜中町と別海町の境界の川で撮影した。

福澤さんがフラワーアレンジメントを始めたのは1991年で、94年にアトリエ・コスモスを結成。現在、

町内ほか別海や根室などで約40人のメンバーにフラワーアレンジメントを教える。季節や行事などを題材とし、毎年春には「春を生ける」をテーマにフキノトウやネコヤナギを使った作品をメンバーと共に制作する。

また、福澤さんは捨て犬や迷い猫、野犬保護など動物愛護活動を行うNPO法人ドッグレスキューしおんの会の代表も務める。毎日町内の自然の中を犬たちと散歩することで創作へのひらめきやヒントが自然と湧くという。また、フラワーアレンジメント教室のメンバーがNPO法人の支援者になったり、NPO法人のメンバーが教室に通うなど

お互いの活動に広がりを見せている。今後について福澤さんは「常に平常心を心掛け、自然体にこだわりたい」とその思いを語る。

同フリーマガジンは全国180カ所の美術館や博物館に設置され、福澤さんの掲載を契機に道立釧路芸術館や釧路湿原美術館でも置かれることとなった。



掲載誌を手にする福澤さん